

太宰管内志

筑後之四

御井郡下

一七三番

和書門			
二九六〇一	二〇二	八二	八二
號	函	架	冊
類			

内閣文庫			
和書	二九六〇一	五	五
類	號	冊	架

内閣文庫			
番號	和	29601	
冊數	82 (58)		
函號	176	44	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Blank page with a faint rectangular border and vertical lines, suggesting a ledger or table structure. The page is otherwise empty of text.

Blank page with a faint rectangular border, suggesting a ledger or table structure. The page is otherwise empty of text.

太宰管内志

明治十一年獻本

筑後國四卷

御井邸下

筑前人伊藤常足編録

○國分寺

續紀十四卷天平十三年三月乙巳詔曰云云每國備寺施
封五十戸水田一十町云云備寺心令有二十僧其名為金光

明四天王護國之寺云云延喜主計式筑後國國分寺料一万

三千三百九十四束續紀十九卷天平勝宝八年十二月筑

後寺二十六國國別頒下灌頂幡云云用了收置金剛明寺永

為寺物筑後坂東寺文書山門未寺筑後國坂寺中堂惠燈

共七社御正躰事任先例奉沙汰下若也福尚名内國分寺志

良香町事於下地若山王御供料足云々至年貢濟物若彼社
荒廢之由有共用為修理料足所致免除也然早衆顯云密守
先規可令與行給之由二品前大備正御房御氣色執達如件
貞和四年六月廿九日坂東寺衆後御中權少備都判とあり
筑後志三卷の筑後国國分寺ハ御井郡國分寺村とあり元
正天皇御代養老七年一國一寺を建て國分寺と号を是共
寺なり寺産十五町を寄附し足利尊氏卿再興有て頗大寺
なりとを其後又廢れて今僅の草堂一字残れり高良山常
樂坊並帶して是を守るとあり高良山ハ皆天台宗なり
さて國分寺ハ官道の筋
に並びて門ハ北向にして堂ハ東向なり
觀音を安置せり南
に並びて天満宮社あり其間ハ藥師堂もあり此地ハ御井

河の北
あり

尼寺

續紀十四卷の天平十三年三月乙巳詔曰每國云々尼寺必
有一十尼其寺名為法華滅罪之寺兩寺相去宜受教戒若
有闕者即須補滿其僧尼毎月八日必應轉讀最勝王經每至月
半誦戒羯摩とありさてこの尼寺趾今詳ならず筑後志な
とより此事ハ考へ洩せりさて當國尼寺事古代書にもよ
り取別て尼寺と云名の見えざれば別件とは引出せざ
例なるに似多れど國分寺則備寺尼寺と渡る名なれば暫
く別件と出して後考を待たむ

國分備寺を金光明天
王護國寺といひ國分尼

寺を法華藏罪寺と云国分二寺事委くハ今本類聚三代格
見え多り筑後地鑑中卷之云云此外雖有古寺旧跡多及
退轉或無佛圖又無住侶或寺跡作耕田佛地成廢圃又為鳥
有故悉不載之とあり或説云国分二寺とも今の国分村
のありり有しなるべし後世も府中国分のありり要
害を作り士宅肆店なむひとく便ありしれむ今の如く
千歳川の北に移し多る物なるべしと云り此説さある
し国分二寺ハ必国府にある例なり乱世も度々燒亡な
どさるに付て今の如く国府より遠ざけて造れるも知か
し序よりいふ今の国分寺村遺水岡の上より中比石櫃を掘
出せり南向よて南よ口如くなる處あり蓋長さく一ら
ざし七尺中同く三尺五寸あり蓋ハ中よりとれ多り蓋よ
ハ取手を造りつけり其さま生葉郡
若官の石櫃よ似多り珍百物なり

○ 弥勒寺

高良山諸堂記よ御井郡高良山弥勒寺云云右二十六箇之
寺院悉皆磨滅僅遺基趾とあり。弥勒寺其趾さぶらなむべ

二十六ヶといふハ高隆寺。弥勒寺。宝塔院。在中院。富住寺。中
院。勢至堂。弘長堂。勸音寺。觀行院。先三昧堂。新三昧堂。正休院。
正覺寺。真諦院。惣持院。淨福寺。地藏堂。東光寺。虚空藏堂。妙見
堂。道場蓮花寺。宝藏寺。極樂寺。妙音寺。岩龍。藥師。これなり此
此外二十箇の内よ趾を失へるも多りれども今よそのか
多を残せしもあり
高隆寺。極樂寺。觀音寺。これなり此外
諸堂記よ載せしハ本寺堂。大田堂。鐘
樓。常行堂。北院。辻堂。千手堂。匠王院。百塔。藥師。北谷。藥師堂。算
所。觀音堂。毘沙門堂。高隆寺。鐘樓。宝藏寺。右十四箇堂今或損
或少僅残其姿とありていづれも
聊共おとぶる残れり

○ 觀行院

高良山 天文廿二年 神領檢地帳よ山本郡大浦村一箇所云云觀
行院分とあり。高良山廿六箇寺院の内よ觀行院の名あり
今廢して寺院ハ傳はらむ

○喜多院

高良山天文二年神領檢地帳山本郡一不之田矢作之内喜多院藥師免壹町内教光坊とあり。高良山諸堂記北院本尊藥師如来とあり

○毘沙門堂

高良山天文二年神領檢地帳山本郡平原村一處壹段毗沙門佛供田とあり。高良山諸堂記毘沙門堂有本尊とあり。高良山愛宕社地文字と彫れ石三立其一ハ不動像とあり共毘沙門像とあり中ハ地像沙門長弁敬白正平二十二丁未九月日とあり

○陽善坊

高良山天文二年神領檢地帳山本郡云云陽善坊高良山文禄五年御井郡御神領帳云云陽善坊とあり。座主院文書云云云仍後御坊題目之儀承候先度數度如申候誠不似合儀蒙仰之由申旧候之處重々如此承候事誠御隔心与存候其上其國乱入之砌一度致治静候者可申談之旨至日田玖珠郡逗留之時分有方江令約諾候淵底三原和泉守与存知前候御坊様云云此由深量注申入候御内志御事候之條此等之趣可預御達候猶帰國之砌可申承候先々省略候恐々謹言。十二月廿一日。陽善坊御館永源判とあり是也全山内の

坊舎とハ聞え多しと今詳なりと

○朝妻社

高良社旧記に朝妻社あり朝妻ハ阿佐都万と訓へし又旧記に朝妻大明神七社神功皇后國長明神古父明神古母明神妙見神社乙宮西宮已上七社當今退轉僅殘基趾堪嘆高良山十景記に其朝妻者在西足二里有神功皇后廟松杉森矗幽薩蒼蔚宝祠巍然華表屹立岩下湧泉迸出清冷香甜異常水三伏甚暑不能涵浴故以清泉為題朝妻清泉高辻中納言豊長

朝妻風景盡新奇松緑杉青伴四時涌出清泉林岳下靈

蹤雄地摠相宜

園大納言基福

酌天知留心母清志神垣毛代々尔多衣世奴朝妻乃水

見え多し志に朝妻七社ハ府中村にありとあり朝妻

ハ高良社神幸の場所にて十月十三日神躰を朝妻に移

奉り神幸次第記に委く見え多し江州叡山坂本に朝妻社あり是を祭りし

○愛宕社

高良山旧記に愛宕社あり愛宕ハ阿多古と訓へし丹波国桑田郡愛宕神社を勧請せりと云高良山十景記に其青天若高良一峯頭有蘭若号青天寺簷虛望遙抱万頃田野吞千

里之筑川迎氷輪於東嶺送玉鑑於西嶽眼界灑然迥絕塵埃
故以秋月名題青天秋月云愛宕堂花山院右大将定誠

寺秋青天青嶂頭高低一望點埃收啼猿樹上深秋月特
照行人万里愁

中院大納言通茂

寺之各乎ヲナラフ内尔母志礼止秋風邪アヤカサ並上理青支空尔アヲキニスル須年

良無ラム

とあり愛宕社ハ府中町南より入處右方なる山上あり

石階高く登て上ニ社あり西向なり盛忠云拜殿ハ二間半三間槌下二間三間神

殿一間半三間奥院あり二間半二間なり本尊地藏石佛毘沙門不動照立同石佛三井寺支配よて領主より修理あり

○極樂寺

高良山旧記ニ極樂寺あり筑後志ニ卷ニ極樂寺御井郡府

中町ニありて千手院と号を開基の年歴詳ならず極樂寺ハ阿曇

廣見磨と云人仁寿年中草創の由云傳ふ凡と云比退轉

して元禄己己の復草堂房舎を造りかくて三井寺ニおそ

せし惠心僧都御作の弥勒往昔住僧行田法印肥前國築間

法印より山伏袈裟頭事を傳授して後寛文十年筑前筑後

肥前肥後豊前豊後日向伊豫尾張凡て九ヶ國山伏袈裟頭

と成り聖護院宮の配下よして大先達權大僧都法印ニ補

任を真言比丘清躰なり毎年和州吉野ニ入峯して先達を

成を袈裟下山伏數十輩其笈ニ屬後を久留米侍後秀色御

井即和泉に於て水田一町余寄附あり。又田中吉政時寺産
三石四斗五升を寄附也。其後先君春林公御井郡高良内村
遣水に於て畑五十石并山林を賜ふ。慶安五年先君瓊林公
寺田五十石を賜ひ。凡て五十三石四斗五升今猶領納也と
あり。極樂寺ハ府中町南より入て右方より入て寺あり。是を
の鴻鐘此寺にあり。此寺に筑前国穂波郡合屋鷺淵村藥師堂

○天満宮

北野文書に北野宮寺領筑後國河北庄事。右庄昔當社領之
條正治以來關東代々下知狀等柄馬也。于今知行無相違表
勤或号地頭家兼余類及競望或守護以下致無理妨之向每

度令施行所全神用也。而為備向後龜鏡依申請裁判上者如
件。嘉慶二年四月五日。左大臣源朝臣判。筑後國北野之天満
宮御福田光富名之内六條貳段半任。先例昔奉進所如件。應
永廿九年十二月廿一日。北野座主坊。伊子守判。北野官司領
筑後國河北庄一内事當知行之旨。捧請文珠御判。御教書等
分明上者。弥可致全領知之由。所被仰下也。仍執達如件。延徳
元年十月廿五日。散位判。飯尾大藏大夫。散位判。飯尾左工門
北野庄之内番匠田地壹丁之事。被任前々旨。可有御拘候
不可有相違之狀如件。永正九年二月廿五日。重永判。上包紙
山天満宮座主坊。參御同席中。今度豊州御登御神領半分。
あり。重永ハ草野長門守を以山

被澄仰候忤家之面目不過之候然若被任前々之旨北野庄
内之事御裁判以諸事内野右京江以御入魂可被仰聞事肝
要存候自然異儀之仁於有之者一途可申付候恐々謹言永
正九壬申四月廿五日天満宮座主坊長門守藤原重永判島方
打渡田島貳段兵部卿同島貳段惣持寺志島貳段西方
寺水島貳段圓藏坊大島貳段南林坊同島貳段御馬同島
壹段文德坊大島壹段覺光寺同島壹段大官司以上島數
壹町五段天正十七年拾月十六日桂民部大輔廣繁判掠梨
惣左卫門尉包忠判桂孫兵衛尉清元判六月十日庄主共外
惣中桂民部大輔廣兄掠梨惣左卫門尉包忠藏田藤右衛門

尉清忠渡辺三郎左卫門尉包辰桂孫兵衛尉清元坪付北野
村云云以上田數四町貳段小拾步分米卅壹石三斗貳升島
數壹町壹段六十步分錢八貫三百廿五文米二斗八石三合
米三十九石六斗四升定右御神領重而就被進前後引合御
打渡如此候也文祿貳年十月晦日座主渡辺三郎左衛門判
橋爪孫右衛門判藏田藤右衛門判惣中寺領之事天正十七
年十月十六日之坪付之事從當復茂可有御所務候此外天
満宮御祭田并修理免從當秋可被付置候於御神前御祈禱
肝要候恐々謹言筑後国北野山天神社及大破之由勸都鄙
之奉加可令修理之旨依曼珠院宮仰執達如件正保四年六

月十九日林松院貞俊御房、權律師判、なりともあり、筑後地鑑上
 卷の御井郡北野、天満宮、後冷泉帝天喜二年二月廿五日中、
 関白道隆、男藤原中宮大夫二男貞仙、備正勸請于此所云云
 前刺史田中吉政公、被寄供田五十石、今為御免地者也、慶
 安年中先君紫薇者公、神敷再興有之、每歲九月廿九日行祭礼、
 筑後志二卷の天満宮、御井郡北野村にあり云云、源頼義
 頼朝二卿より神領寄附し給へり、を草野太郎重永再興せ
 り、其後慶長年中田中筑後守忠政神田五十二石を寄附せ
 り、承應年中先君瓊林公再興あり、明和年中藩君羽林公敷
 門を潤色して池橋を管作し給へりともあり、社ハ西よ向て

立又樓門あり、石鳥居三基あり、二三の鳥居ハ官道よたち
 るれハ筑後肥後薩戸等、諸候西鳥居中鳥居をぬけて社前
 より左よ折れて筑前方よ向ハ、社備二軒あり、林松院と
 云社家兩家あり、北野、天神ハ一鳥居二鳥居三鳥居、
 町むろり、あり、
 筑後肥後薩戸の大
名皆この鳥居の下を通り、
 院官司妙樂寺神官高尾美作高木衛門是なり、常足按を、
 北野と云名ハ洛北北野の天神の社領多り、故なるべ
 此社ハ傳ハれ、文書の内ハ北野宮社領諸国庄園田島
 辺敷地事右伊勢造官付諸寺社御禊大嘗會臨時恒例課役
 諸国段錢地口將亦守護催促軍役兵糧人夫以下悉所免除
 也、社家存此趣致、兵隆可專、神事之状如件、至徳四年四月廿
 一、四月五大臣源朝臣とあり、此文よ因て考ふ、嘉慶二年
 四月五日とあり、御教書も同趣なり、

○高良社

北野社旧記より北野高良社あり。論より筑後國河北庄天神
高良社及退轉之由歎思召候勸都鄙奉加勵再與之功奉祈
室祚延長天下安全之旨可令申入曼珠院官給者依天氣執
啓如件。十二月五日。謹上大納言法印御方。頭右大辨兼賢。又
文書より筑後國河北庄天満高良兩社再與之由大慶思召候
然者後先規御寺務條今度被成綸旨之間則被遣之候此旨
一社中令相觸於其地造官可為肝要候此等之趣當門被仰
下候也。恐々謹言。十二月廿二日。林松院良曉判。包紙より令旨
一通筑後北
野山座主
とあり初判筑後國河北庄天満高良兩社可有再與之由
珍重候。弥奉加之事可為肝要之旨被仰出候也。加件元和四年三

月廿一日。本願林松院松壽丸などあり。高牟礼山の高良社
を勸請^{カウ}し。三瀬郡より御舟山高良
社として古社あり北野高良社の
旧跡ハ今も北野郷高良村の四隅にありて定めかゝし

○廣福寺

筑後北野社坪付よ云云。初ハ切て見え
をたて紙なり一段二丈西方寺前。
一廣福寺免。一大島藥師院田畠三段十丈。一今山毘沙門院
五段。一辻觀音堂免未光畠地一段一丈。惣已上四十五丁二
段三文。内半分二丁六段一文中。右大概目錄如件。應永廿四
年潤五月十八日。又一通より光福寺毘沙門修正とあるハ同
寺なることあり

○西方寺

應永廿四年北野天満宮田島目録より一及二丈西方寺前より旧

記より西方寺免坊地共田島七町五段一丈などあり。西方寺事

いすゝ考へども天正十七年拾月十六日島方打渡より島

貳段西方寺ともあり

○薬師院

應永廿四年北野社田島目録より一大島薬師院修正田島修理

免三段十丈とあり。大島ハ北野の内なり薬師堂今も大島

よりあり

○観音堂

應永廿四年北野社田島目録より一辻観音堂未光島地一段一

丈とあり

○惣持寺

北野社天正十七年島方打渡目録より田島貳段惣持寺とあり

り。此寺今ハ廢せり

○覚光寺

北野社天正十七年島方打渡目録より大島島志段覚光寺とあり

此寺も廢せり

○安國寺

高良山天文廿年二月神領一所六段安國寺分自作とあり

筑後地鑑中卷に御井郡神代山安国寺、曆應二年己卯尊氏
將軍每州建安国寺被祈諸国安全之云田中代寄寺田五十
二石于今為免許之地、筑後志三卷に御井郡神代村神代山
安国寺云尊氏公寺田三百貫を寄附し給へり、其後文禄五
年羽柴秀包改て寺田十町七段を寄附も、又大友宗麟筑後
川神代濟料を寺産とも、其後田中吉政改て寺領五十二石
を寄附して今猶存せり、往古塔頭九院あり、今宝林菴一宇
残れり、子院昔二十箇寺あり、今山本郡草場村田
通寺のく残れり尤古蹟の
禪林なりとあり

○金勝院

文書に云々無比類、雖正本於有所望、教王護國寺金勝遣代
々秘藏肝要之風情、末代之重宝、末師之傳受、不過受法師因
鐘自在也、天正九年九月廿一日、青蓮院尊俊判、無相違權大
僧正可理之状如件、金勝院とあり、此文書ハ御井郡下東
坂村甚蔵と云者所持せ
り、御井郡東郷坂村馬渡金勝院の古跡ハ同村八幡宮のう
しろあり、金勝院ハ此村なるハ幡宮の神官よして持傳
ハ多シ家ハ彼住僧共の後なりといふ
○祇園社
筑後志六卷天正十三年感状に今度至久留目祇園原龍造寺打出
候刻紹運逆雪為先手合戦之砌討取矢色記内粉骨之働誠
感悦候、弥勵忠節、肝要也、追而可賀也、猶丹後入道可伸也

恐々謹言。五月十五日。野上清四郎殿宗麟。今按之。祇園
原ハ今久留米。外城の内なる祇園社。地往昔原野。よて松林
多加りけり。故に此名有。歛とあり。筑後地鑑上巻に久留米
城中有祇園社。真言僧守之。夏六月。自初七及中旬。行御靈會
祭礼。振神輿引山有。數本異類異形之通物。童男若老之。乱曲
終日驚目者也。州内隣國之觀者如堵。其儀效京師。祇園會。筑
後志三卷に久留米祇園社ハ外郭内にもあり。松園山祇園寺と
号も祭神午頭天皇社傳云。貞觀十七年。社僧法印真應。勸請
也。其後肥後國守菊池氏神領五十餘町を寄附せり。其後乱
世を歴て稱廢絶し。天正元年。法印快空再興也。同五年内田

是兵衛室敷拜殿を建立せり。元和九年。執權稱次亮岐又改
造せり。寛永十六年。先君春林公。修造有て。神田二十石を寄
附し給へり。羽林公神田を加増して。都て百石と成給ふ。又
神地を加倍し。八幡宮。天満宮。秋葉權現寺。社を造營し。雞栖
瑞籬を改造。よ悉石を以て。新に神庫を多て云云。毎歲
六月七日。祭礼を行ひ。神輿を十間屋敷の行在所に移し。同
十四日。還御あり云云。真言徒之と守り。慈恩院と号も住僧
求世院家を持也。末寺ハ法恩寺。常樂寺。田通寺。遍照院なり。

○普濟寺

高良山

宗嶋家

文書に今度長増山勤番之儀申候之處別而御

馳走肝要候然者三井郡之内普濟寺十五町中村十五町淡
 瀬二町石崎十二町山門郡之内北関六町上妻郡之内今廣
 五町為御城料可致取合候可有御知所候恐々謹言正月廿
 五日高良社大官司殿宗歴判鎮連判紹運判道雪判とあり
 筑後志三卷と普濟寺古趾御井郡西簾坂村とあり香雲山
 と号も後醍醐帝御代嘉暦年中鎌倉岡覺寺佛光禪師の第
 子佛国和尚の開基として尊氏卿寺田二十餘町を寄附し
 賜へり其後筑紫廣門寺田六町を寄附せらるるを天正十五
 年よ至て廢寺となるとあり
久留米人云梅林寺未寺御井
 即簾坂村普濟寺境内より明
 和六年よ古碑と堀せり豎一尺横一尺五寸よして四面よ
 梵字あり銘よ光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨弘長

元年七月廿八日寅魁比丘尼蓮魂七十五代とあり普濟寺
 大覺禪寺の開基なりと云といへり

○圓通寺

資清木像銘よ赤司五郎次郎紀資清者豊州大友家幕下而
 代々筑後州三井郡赤司之城主也其比領分葛場村構館殿
 未申創草田通寺資清於筑前箱崎表戦死とあり資清甲冑
 木像ハ草場村田通寺とあり銘ハ近世
 の作あり又大友家感状よ父
 五郎次郎事今度宮崎表戦死之由候其砌無比類働之由感
 入候必取静可賀之趣猶戸次伯耆守可申候恐々謹言九月
 廿二日赤司松千代殿宗麟判とあり此感状ハ御井郡安居
 野村大庄屋赤司順太
 郎家蔵
 松千代ハ池田駿河守が子孫よして駿河守が時よ

姓と赤司と改めしと云。序と云筑後志二巻と八幡宮御
国石清水八幡宮を勧請せし社田十八町を寄附せしとい
と秀吉公九州征伐の時没收せし又慶長六年田中氏
再興して供田一段を寄附せしと云。今又廢せり。
毎年十一月朔卯の日の祭礼をとり行ふ。円通寺ハ
禪宗として御井郡草葉村とあり

○國府

和名抄と筑後國國府在御井郡。拾芥抄と筑
筑後國府粟屋口辻固事被仰下之旨當國荒木六郎入道宗
戒女子大江氏荒木一
分地頭代弥六家有自今月廿四迄于同廿二
日夜三ヶ月夜令勤仕候乎以此旨可有御披露候恐惶謹言。
建武四年三月廿三日。藤原家有承候花押とありさて古本

九州軍記一卷と貞治元年菊池と云將軍官を筑後府と
て御勤座なり奉り御供と新田一族岩松桃井埴大井田
其外各和長生島津之一族八代赤星山鹿牛糞都合共勢四
万餘騎爰して二季と押分て菊池舎弟三郎武幸と六千餘
と差添大手として同国生葉郡より癸向とありと此處
と云なり。筑後地鑑上巻と御井郡高良山山蔚然水凜乎或
号不濡山西麓有園園是古昔之國府也今尚呼為府中筑後
志二巻と府中御井郡高良山麓として當今宿駅あり古昔
傳云古國府なり隣郡國分村和泉村の田畠を耕して古尾
を得し事あり青赤白色共形一なりと表と數品の紋あり

世は此尾を網手と名づく。又彼和泉村中は俗は長者屋敷
と称する所あり其辺は古井趾あり是皆國府の旧趾なる
べし。國分村名も國府の轉音なるも知れしとあり。豊後
國
森氏に御井即府中の地上古往來の駅路ハ詳は知れり。多
れども今、様を以て考ふるは府中の地大凡國の中央より
東ハ生葉郡といはれり。西ハ三淵郡といはれり。南ハ三池郡
い。松崎駅に至て夫より此府中より來多りて又南ハ行
三里より羽犬塚駅といはれり。又豊後より來多りハ生葉
郡吉井駅よりて、西ハ久留目、
城下を経て肥前國佐賀といはれり。

○御井駅

延喜式は筑後國御井駅あり。委くハ一巻筑後國
大攝件より引出多り御井駅の

趾今詳ならずを強て考ふるは今府中駅の辺なるべし。豊後
森氏

ハ神代北野二村の内筑前石櫃より御原郡本郷駅に入る

本郷より同郡松崎駅は三里あり松崎より府中は三里あり

其向は神代渡あり地理の様は依て考ふるは必宿駅あり

るべき處なり。筑後地鑑中巻は後筑前境本郷至肥後境四
ヶ村凡十里有矣此路北來自豊前小倉南至

于薩州房津本朝開闢已來大路也故道古昔自羽犬塚駅亭
渡長田川過本吉邑至原野町駅即なども見え多り。神代の

件はくも事ハ神代御の

○高良山

肥前國風土記養父郡巨
理卿件昔者筑後國御井川渡瀬甚廣人

畜難渡於茲纏向日代宮御宇天皇巡狩之時就生葉山為舩

山就高良山為梶山之云。同風土記基詳
郡件昔者纏向日代宮御

宇天皇巡狩之時御筑紫國御并郡高羅之行宮遊覽國又長

神社 天皇自高良行宮還幸而在酒殿泉之地などあり高良

ハ古羅と訓べし。地名字音轉用例云高良を今ハコウラ

多れバコラなるべし。大善寺王重宮古縁起云高良宿所後

号高郡とあり今高良山の麓云高樹社ト云有てタカウレ

ノヤレロと唱ふるあり是ハ國史云高樹神といふガ有レ

依て後人の群を樹に替へるなるべし

名義いさぶ詳なるも 柳園隨筆云肥前風土記云天皇自高

膳之時御具甲鎧光明異常仍令台向ト部殖及奏云此地有

神甚願御鎧云云とありさて古言云甲を加和羅と云り高

良と假字ひとしけれバ何と云彼甲鎧云由縁ありげと聞

ゆ又俗猿樂の弓ハ幡云高良神をカワラノレニと云う

又是ハ後の訛りけり古云然いひ多りしうさガはし又

高良王重命と云り甲鎧光明とあり云依るもや古ハカ

物と云玉を系よぬきて鎧とせしかむ甲鎧も玉もてかざ

の事あるべし彼天照大神のとまけび云賜ふ件よやさう

の五而箇御統の玉を纏賜ひし事見え神功皇后の猛

御装を成賜ふ憂よ此事見え多れむそのかそハ軍之

ひと多くの玉を纏ひて飾と云ふなり是等ハ さて文徳実

録三卷云仁寿元年三月筑後國高良山王重神云云又袖下

衣云高良山をぬれせぬ山とも云ををり各所なりある

人の癸句云

云ぐれよめれせぬ山のあをむら

とも見え多り太平記三十三卷云去程云 延文三年七月云征西

將軍宮を大將として新田一族菊池一族云其勢都合八

千餘騎高良山柳坂水繩山三箇所云陣をと取多りける 九

軍記云中国の大敵渡海して豊筑の向云々て豊後方難

儀の内飛脚敷收の如くなりしむば永禄十二年五月六日

大友宗麟豊後府内を打立て筑後国三井郡高良山に著陣
 を當山座主良寛僧都に法師をれども弓箭の道より賢く
 東久留米にも所より城を構へ宗麟の進退心のす
 り共上岷山ハ三方ハ田野廣くして軍勢の進退心のす
 下より一方ハ水繩山に續て要害の利あり肥前筑後を目
 運送の便あり軍中の用度先手の指揮を掌りむが為
 高良山ノ座主良寛大友家ニ後属スルニ依テ當國ノ住士
 河崎古京亮西年田播守兩家ノ兵士五百余人不虞ニ高
 良山ニ兵ヲ進ム良寛峻ニ拠テ能ク防戦ニ依テ輒ク抜ク
 ヲ得ズ猶シケルニ大友ノ援兵五百人河崎西年田力陣ヲ
 オソフ是ニ於テ兩家ノ軍士一戦ニモ及ハズ敗散セリ同
 年六月十五日西年田左衛門大夫旗ヲ揚テ陶三池溝口蒲
 池河崎大津山大野小代辺春ノ九家ト謀合セ再ビ高良山
 ヲ圍ミ攻ム坐主良寛防拒ノ術盡テ敗走セリ
 筑後地鑑上卷ニ高良山云々今座主寂源僧正聚當山十境
 名十名所奏禁裡乞親王門主及諸公卿大臣達詩歌之人二

十筆覓一詩一歌之自筆吟詠矣既而詩歌偕成而達府君之
 御覽府君觀感之加錦繡之美帙以為一帖貯以衣襟藏兩三
 重之函為當山之一珍納于神府其境詩歌曰竹樓春望
景記ニ共竹樓者山中之要會極目之絶境也吾排蓬藿即此
架竹樓登斯樓西望則久留米在前相隔六七里粉堞層々疊
出佳氣蒼々如蒸源頼元朝馬中務馬大輔轉眸西南四十里許有
肥州佐賀城得于霞外鍋島馬波南望三十里許柳川城疎於
海中宛如蜃樓陰晴隱顯足觀法無生守立馬飛彈西北去山四
十余里室滿岳縹緲天表其南去此八九十里肥之雲嶽如一
片雲俯瞰山下平地千里村々相接田々蒼布可以觀國政之
豐功焉筑川如帶紫迴入南海回睇四隣嘉木葱鬱和氣抽緑
暖靄蒸紅尤宜春望故以春望命題コ、二十景記トテ舉ル
ハ筑後志五卷ニミエタル天和三年前知積僧正泊如運敵
皆記ナリ下妙法親王竟怨
 竹樓百尺倚青穹万里山川目力窮柳色淡濃花遠近一

望無處不春風。

近衛左近大臣基熙

樓乃上波春社殊仁吳竹延尋常奈良壽霞海山

吉見滿花

十景記云其吉見者在竹樓西北孤峯岸崖絕壁而

花撩亂爛熳燿心目故以滿花為題地鑑上卷云天正十五年閏白豊且公征西時亦轉門於高良山山之西北一峯頭乃其處也轉法輪大納言實道

一嶽峻嶂聳九天櫻花四發更嬋娟徑移吉野添春色獻

倒華山玉井蓮

菊亭大将公規

阿加壽見年吉見嶽乃花盛和光天異成春乃色香乎

御手洗螢

十景記云其御手洗者洞水洽々際流四麓玄古玉

除燭々宵行至其嶽群星流波上火橋水底柳原大納言資

行

玉垂在昔臨此水神迹流芳橋上名御手洗餘滴疑散凝

光矜照作宵行

日野大納言弘資

暮夜波螢涼久川風仁亂橋止云名毛朽壽志天

中谷紅葉

十景記云其中谷者在竹樓東北入洞谷石崖夾路

厄峯而岩穴噴泉洄瀨入池綠鴨浮沉金鱗涵泳四岸高樹柳原侍從秀光

青女深成日夜功。滿山無處不霜風。疑將瀑布千尋白。變作秋栢一掃紅。

日野中納言資茂

秋乎知色毛滿氣利松竹者常磐乃中乃谷乃紅葉

不濡山霰

十景記 其不濡山者高良一名也 凡高良山形勢 東南長南北不廣自西瞻山面昂然如虎踞自南

北望之遷迤如龍卧後負列嶽列嶽居然無草木獨不濡山樹 竹茂盛蒨蒨曉暖四時有霰雨故以霰為題

伏原少納言宣幸

朔風吹散不濡山。幾變浮雲頃刻間。應是紫陽奇絕處。作晴作雨轉清閑。

阿野大納言季信

阿野大納言季信

此比波名乃美不濡山。姬乃袖毛于阿倍須降時雨哉。

鷲尾素雪

十景記 其鷲尾者一峯特如削圭壁山足有尸陀林 既此地者觀人世無常傷有為磨滅但當皚雪

時眺望可愛 故以素雪為 東園宰相基量

勝處從來各自傳。時添景物更應憐。何人詩思搖銀海。鷲尾峰頭雪後天。

尾峰頭雪後天。

鳥丸中納言光雄

積利添雪乃日數乎重奉天伊止々上見奴鷲尾峯

玉垂古松

十景記 其玉垂者云履中天皇勅建此宮寢窟 向西北蓋防禦三韓不虞也 創建已來過一十三而

星霜老松偃蓋虬枝夭矯騰凌霄霄 竹門主法親王良尚 漢圃繞窟垣故以古松為一境

瑞玉垂傳古窟宮。威靈如在至今同。老松風度起神曲。盛

德遺音瞻仰中。

白川二位雅喬

スエタカキマツヤ 知人_{シルヒト} 玉垂_{タマタレノ} 乃宮_{ノミヤ} 居久志_{イサシ} 支昔語_{シカレガタリモ} 毛

云云。承應二年癸巳先君鳳閣造營一殿于高良山中奉安大猷院敷靈牌每月二十日入山登殿焚香拜謁使衆徒修法事牌銘毘沙門堂門主之筆蹟而署扁竹林院門主之所書也。供料田百石。明曆元年乙未三月山麓立華表先君鳳閣之寄進也。其石從竹野郡石垣山出役八郡民數令引之。今見之者多。此外座主寂源十景詩歌又台嶽歌非際十景詩季吟十景歌。而りて筑後志五卷に載せり。

○御井川

肥前風土記云昔者筑後國御井川渡瀬其廣人畜難渡於茲纏向代宮御宇天皇巡狩之時就生葉山為船山就高良山為梶山造備船漕渡人物因曰亘理とあり。豊後風土記云田郡石井郎云云郎中有河名曰阿蘇川其源出肥後國阿蘇郡小国之峯流到此郡即与球珠川合為一川名曰田川年魚多在。遂過筑前筑後等國入於西海とあり。則此川を云云。なり。田川筑前よ入て三城川とあり。筑前三城川事太平記十大卷に見え多 御井郡よ入て御井川と成り。御井川太平記云云筑後川と云是なり。古此川御井郡より肥前國養父郡ノ千栗界

を流れて海に入る中比瀬下と堀て直に西に流る故に肥

前巨津郷方より八隔多れり豊後風土記解より田川自渡里

後国生葉郡及三瀬郡等西南流入海所經肥後豊後筑前筑

後肥前筑後五国是謂筑後川世所稱三大河之一也とあり又

同書より筑後川下流草場村以下及二里三月間漁人多取時

魚土俗是曰惠都取之者先以一大網後舟引網一頭在濱人

扣之絶流舟在深淵之處潮満于水速時以舟追之漁者云

此魚悲雷故舟中横竹木敲之似雷夷又以竿敲水面謂之列

卒舟不嫌日夜共響聞可一里追大網時木舟網自深至浅拳

次上得魚數百或數千如若數回此魚味浅而堪多食とあり

序より御井川と八雲御杖と千年川筑後とありハゆくり

なくの給へる又傳寫の誤りてもありハ古の書ハ下

りよもいと候今の世よも千年川といふ所此国よあり事

なり千年川ハ丹波国よありて各高月慶をれハ都ガハの

人のより志の處ちり此事三戸の士安藤為章と云人古

ふよとも引出て委しく論へり天正十三年大友家勢と秋

月勢と筑後川矢原の瀬よ合戦も事委く戸次軍談六

卷よ見え多り筑前国怡土郡大門村中村氏所蔵古文書よ

筑前国御家人松浦一族中村孫四郎入道栄永謹言上早去

月十六日筑後国鳥海合戦時抽軍志上者下賜御判欲備未

代亀鑑尚事古去月十六日於鳥海懸入于菊池掃部助武敏

以下凶徒等中致散々合戦抽軍志候條一所合戦尚松浦寒

水井八郎同中島源次郎當國篠原河尻九郎等令見知畢然

早下賜御判為備未代亀鑑言上如件建武三年六月承判と

あり鳥海ハ何郡の内なりヤ今俄よ
思出さるよ依て此處よ奉つ

○節原郷

和名杖よ御井郡節原郷あり筑後地鑑上卷よ按源順和名

曰筑後国御井郡有節原是誤擲原欵云云久留米城者云云

東名擲原西号京隈とあり是よ依て節原ハ久志波良と訓

ひべらる又不之と久志とを通し云例古くハ垂仁天

皇紀諸陵式等よ伏見とあるを續紀六卷よ擲見山陵とあ

是なり。さうでも古書に字偏を省きて用ふ例多し。れ
む節ハ擲ともむむなり。筑後志二卷に五穀神社御井
院田通寺と号を祭神守夜神なり。往昔同郡府中村の廢寺
を國君羽公の命に依て此處に再興あり。蓋稼穀の豊登を
守る神なり。松園山祇園寺の末院にして真言の徒具と守
る。齋前より放生池あり。共致景云へり。又神境に天満宮
大慈堂念佛堂等を造立し。莊嚴極めて美なり。毎春正月九
月祭礼あり。境内若干の景物を粧ひ。舞踏伎踊をなす。其
壯觀華記の及ぶ所あり。近隣遠境の貴賤参詣市をな
す。もとあり。又同書六卷に天満宮ハ御井郡檜原村にあり。里
老傳に菅公太宰府に左遷の後隣州より奉りて依て遂に菅
せしと當州よりハ毎歲檜原村より奉りて依て遂に菅
公の所領の如くなり。是に依て後年此處に太宰府天満
宮を勧請せり。神像ハ頼朝卿信仰有り。灵像なり。今同郡南
董地檜原より

○伴太郷

和名杖御井郡伴太郷あり。伴太ハ波多と訓むべし。名義
いさへ不考。太郷事古に物多く見えたり。太平記大原合戦
件又九州軍記等に幡田次郎と云ふ見えたり。ハ此伴太よ
り出ると。和名杖に土佐國幡多半太なり。ありて幡と伴
とハ同假字に用。此郷地今ハ其名をふに傳へざれば考ふ
べし。多つな。森氏云。今下妻郡水田村にて製を土鍋
此土鍋古ハ御井郡伴太郷にて作れり。と後水田に移て
えの地名を置。名よ負せて長く傳へり。ハありぬ。又
山本郡に飯田村あり。御井山本二郡地相近り。れは是と云
ふハありぬ。飯田伴太よりハ世書に例古くもあり。豊後
國玖珠郡などよあり。と云ふ見えたり。豊後國
大分郡伴太と云ふ和名杖に見えたり。照按續日本
紀天平神護二年十一月授正六位上伴田朝臣仲乃自從六
位下トアリ。又本朝武林原始鑑作條曰一説道臣命ノ後胤

大津武將ノ子孫大津貞李筑後國伴田ニ居シ甲冑ヲ作ル
源頼義奥州負任ヲ討丑ノ時貞李甲冑數領ヲ製シ奉ル是
筑紫甲冑師伴太氏ノ祖也トイハ傳ヘリ陸奥話記ニ深江
是則大津貞李等
引率敢死者二十餘人以劍鑿岸
杖鉞登巖斬壞柵下乱入城内トアリ是ハ地名ヨリ起リ
タニ姓氏ト見エ

○殖木

和名拔ノ御井郡殖木郷あり殖木ハ宇惠岐ト訓ベシ名義
ハ異本ナド多く植生シ多シ地トて貢せ多シ諸国ノ
多シ地
名ナリ同書ニ肥後
周飽田郡殖木筑後志ニ御井郡殖木郷廢れて今ハな

○弓削

和名拔ノ御井郡弓削あり弓削ハ由介ト訓ベシ河内國若
江郡弓削
由介ト名義ハ弓削部ノ任マシ處トて貢せトシ弓削部事
ハ初テ垂仁天皇
紀ニ見エ多シさて持統天皇紀ニ筑紫人弓削連云云此文
ハ上妻郡土師郷
件ニ引出多シ東鑑六卷ニ文治二年二月廿一日弓削庄
兵糧米事可停止之旨以帥中納言被仰北條殿召問沙汰者
可令言上之由今日被進請文而無左右不成免判願以称可
御不審黄門加斟酌暫不奏御返事之由云云四月十三日件
ニ引出多シ
事云六月廿一日云云右件地七箇國々被下院宣紀定武士
濫行方々僻事可被直非道於正理也但鎮西九箇國者帥中

納言殿御汝汰也云々見え多し。筑後地鑑中巻に御井
即上弓削下弓削二村あり。弓削村事ハいさぐさ考へる上弓
削村ハ法皇宮あり道鏡靈を祭
と云り

○神代

和名抄に御井郡神代あり。今本代を氏に誤り神代ハ久麻志呂
と訓べし。和名抄に備後国三上郡神代淡路国三原郡神稻
志ノ四巻ニ神代物部良績御井郡神代村ノ入出自未詳。肥
前国高木郡神代加無之呂ともあれバコトナシカハシ
口と訓べし。久万之呂トモアリ。式ノ能登国羽咋郡神代神社
唱ふ事ハ然よつ。又青柳大人ノ説ニ神代ハクマ
シロトよめる。又神稻を古ハクマシ子とよめり。今御
久米といふ是なり。又近世の姓氏にも神代をクマシロト
いよめり。名義ハ神代直よ由有て負せよべし。神代直事

肥前風土記彼杵郡浮穴郷件見え多し。さて御井郡神
神代村あり。筑後志一卷に後守多院建治元年北條相模守
永十一年蒙古襲来之刻肥後薩戸州隅州之諸軍馳参之
砌筑後川神代浮橋九州第一之難所也。神代良忠以調畧諸
軍輒打渡蒙古退治之事。王命官冥慮扶桑永代為安利之由
所仰如件。建治元年十月廿九日別當相模守平朝臣判とあ
る由見え多し。浮橋
事考ふべし

○賀駄

和名抄に御井郡賀駄あり。賀駄ハ可陀と訓べし。名義詳な
らば筑前風土記に糖屋郡牧田和名抄に筑後志に御井郡
紀伊国海部郡賀太などあり。筑後志に御井郡
賀駄御今棄れてやとあり。上田而樹が説に万葉集十五
麻思未志久母見祢婆古悲思吉伊毛乎於支互伎奴とあり
可太ハ筑後の賀駄なりべし。三端郡に大島村ありと云

へむ由ありと云へりしかどありれりとも聞えむ夫木集
有家の歌は逢事のかゝの大島いづづりよ心づくりの政
はぬれつゝとあるなどハ
筑紫の大島の事のやうに聞ゆ

○大城

和名抄に御井郡大城あり。大城ハ於保伎と訓べし。名義不詳。
筑前国三城と同意なるハ彼ハ強て考ふるよ山本郡觀興
城院の意よて負へると云
寺、旧記曰昔在豊後國深山有異木致光草野太郎伐之投筑
後川一夜而至于此所處名曰一夜川其異木之流止處之岸
畔之一村名之曰大木今作大城非也皆異木流來所得其名
而彫刻此木以造觀音像建立一字安置之今觀興寺是也と
あり。草野太郎とあるハ信がゞ事なるも異木事ハ捨難

言語傳り

式は伊勢國河曲郡大木神社草野系圖を考ふ
るよ頼朝公於筑後賜山本御井御原之内三千

町城于草野庄吉木村故号草野太郎永平とありハ和名抄よりハ遙の後のことなり森氏云御井郡

大城村ハ千年川の北よして神代村より少水上方よ有て
川よ添ふる村あり

○山家

和名抄に御井郡山家あり。山家ハ也万敷と訓べし。和名抄
ニ上總國周淮郡山家也万倍トモアリ。名義ハ山籠ふる里
よて負せふるべし。筑後志に御井郡山家郷今ハ廢れてな
しとあり。森氏云御井郡に鱈坂庄北野庄ありさて北野近
き處に本郷村あり是山家本郷よハありぬる。

太平記三十
三卷延文三

年七月、件山井三郎惟則とあり、ハ、ハ、の山家より出多
の姓ハ、ありぬ、や何家と云地名の家ハ、ハ、の如く、唱
ふ、例多、一、二、序、ハ、地、鑑、上、卷、御井、北野、天満、官、
後、冷、泉、帝、天、喜、二、年、二、月、廿、五、日、中、関、白、道、隆、男、藤、原、中、官、大、
夫、二、男、貞、仙、僧、正、勸、請、于、此、所、云、云、前、刺、史、田、中、吉、政、公、被、寄、
供、田、五、十、石、于、今、為、御、免、地、昔、也、慶、安、年、中、先、君、紫、微、首、公、神、
殿、再、興、有、之、每、歲、九、月、
廿、九、日、行、祭、礼、と、あり

○一夜川

名寄ハ筑後國一夜川頭氏

名ハ高百秋の半の一夜川ことり著く澄、月影

八雲御抄五卷ハ一夜川筑後名處方角抄ハ筑後國一夜川
千年川とも世俗ハ筑後川と云

其、中、ハ、後、世、も、と、も、一、夜、川、渡、り、や、何、の、夢、路、な、ら、む

なと見えあり、一夜ハ比登と訓、バシ、名義ハ觀興寺、旧記

ハ昔在豊後國深山有異木放光草野太郎代之投筑後川一

夜而流而至于此所處名曰一夜川とあり、さて筑後地鑑上

卷ハ千年川此川之総称而一夜川則指其一處之名也在大

城村河上とあり、千年川の事ハ上ハ辨ハ、扶桑紀勝ハ

の向一里許と云、一夜川ハ筑後川の内大城村と神代村と

○高野

平家物語ハ卷ハ源太夫判官季貞根津判官守澄向後傍輩

のハ、め、奇、怪、候、召、捕、候、と、ん、と、其、勢、三、千、餘、騎、よ、て、筑、後、國

ハ、打、越、高、野、本、庄、ハ、奈、向、リ、て、一、日、一、夜、責、戦、ふ、と、れ、と、も、惟

惟義り方の勢雲霞の如くは重ねバカ及び引退くとあり。高野ハ多加乃とよむべし。土地の形は依て負せしる名なるべし。万葉集一卷ノ歌ニ高野原之宇倍筑後地鑑中巻ニ御井郡高野村あり

○杜渡

太平記三十三卷延文三年七月大原件ノ小貳ハ云云都合其勢六万餘騎杜渡を前ニ當て味坂左ノ陣を取るとあり。杜渡ハ毛利乃和多利と訓べし。地鑑上巻ニ御井郡杜渡太平記曰此州有杜渡杜字讀若以訓惠都里未詳其所據矣或曰宮地東敷町濱河之邑名曰森森字俗或作杜蓋森之渡也誤

和訓欵同書中巻ニ御井郡森村

式ノ但馬國養父郡杜内神

社久留米、士云森村、庄屋高木七郎吉宅中ノ先祖

守正治ハ文明五年とあり高木遠江分正割ハ文明十八年

とあり高木薩戸掾正持ハ永正三年とあり高木正綱ハ天

文十六年とあり高木九郎左卫門正武ハ天正四年とあり

杜渡初ニ杜渡と書ふと後ニ杜と書ひがめ多るとあり

もあらずむう社と社とまふ事かふふも見え多り

三卷ノ宮陣の津吏某が家の紋ハ菊水にて楠家なり傳云

征西將軍九州臨向の時供奉せし者ノ後裔なりと云とあり

○味坂庄
太平記三十三卷ニ味坂庄云云とあり。味坂ハ阿遲佐加と

記むべし。名義いさづ考へも。式ノ越前國坂井郡味坂神社

云々味の味酒安行と云人神託に依て天神社を造りて筑
 事見し多り此の味坂より由あり人よハ有ぬりさて筑
 後地鑑中巻に御井即西鰻坂村東鰻坂村云云西鰻坂村平
 城有筑紫上野介家宗城也又古賀村有館右野筑後志六
 卷に義満將軍在陣地御井即鰻坂村にあり其事續太平記
 に見え多り扶桑紀勝六巻に鰻坂村より宮陣渡場まで凡
 て一里十町あり同處より善導寺まで二里十町あり云云
 宮陣の辺りてハ潮の指引あり宮陣元ハ征西將軍官の御
 陣所なり故に宮陣と云千光寺に宮御墓所と云傳へる
 古墳ありなと見え多り筑後志二巻に若宮社ハ御井即東
四郎高綱再興して社田三十六町を寄附ると云今其社田
祭せり毎年九月十五日祭礼あり同書三巻に馬洗川ハ御

井即鰻坂村にあり里老傳云佐々木四郎高綱軍功の賞と
 して當州鰻坂庄七百町あり地を賜はりて此地に移るをむ
 其良馬生啜を此川よて洗ひといふ今按るに鰻坂の
 大農長佐々木氏の家傳に佐々木高繩此地に寓居する事
 三年の内三淵郡筥洞村より驛妾を求め一男子をうむ是
 と佐々三郎利綱と号を高綱鎌倉より歸り時此地を利綱に
 附せり其裔孫民間に落て今猶鰻坂の地に在る家紋
 四目結を用ふ是に因て按るに馬洗川の旧跡より所な
 りとありず同巻に家宗居城終六十間横二十間云云麟咲
 館第一郭堅五十間横三十一間池水を背よを第二郭堅七
 十四間横二十七間ありなりあり

○久留米

高良山文書に鰻坂之内武清名事以前證文等歴然之間進
 遵行候之處津江山城守押領候由其間候太不可然候任理
 運重而一筆進之候早々可有知行候共旨申付役人候忍々

謹言。四月廿三日。久留米致親家判。同天文廿年二月神領換
地帳。云云。久留米。分天正六年書字。筑後領主付。一丹波
良寬城居。久留米。同書。一五而八十町。高良山。座主良寬。大友興廢記。天正
十三年云云。感狀曰。今度至久留。目祇園原龍造寺。打出候刺
紹運道雪為先手合戰之砌。討捕失色。記内粉骨之働誠感悅
候。殊効忠節事肝要也。追而可賀也。猶丹後入道可伸者也。恐
々謹言。五月十五日。野上清四郎致宗麟。云々。見之。多。久留
米。俱流迷。と訓。心。し。名義詳。云々。も。よ。て。享和武鑑。有馬
中務大輔頼大廣間。從四位。待從。献上銀卅枚。綿七把。子寅辰午申。拜
領銀卅枚。卷物。并御馬。乙卯巳未酉。亥四月。御暇。參府御暇之節。上使御老

中時。献上正月三日。御盃。二月塩鴨。四月風呂前土器。歸國
御礼。晒布二種。一荷。暑中塩海草。九月半田土鍋。十月御鯛。十
一月筑後九年。母同密柑。端午御單物。御帷子。重陽御鬘。斗目
御小袖。歲暮同断。上三田町。通右角。中芝二本棧。下左。右。己。下。せん。左。右。京西。同院。四條。上。下。大坂中。
島常安。丁。伏見。丹後町。大德寺派。澁谷瑞泉山祥雲寺。二拾一万石。居城
筑後御井。即久留米。江戸より。海陸二城主毛利家小早川治
部大輔秀包。居之慶長五田。中兵部大輔吉政。同筑後守忠政
元和六有馬玄蕃頭豐氏以後。代々領之。系圖。有馬赤松本。國播。廣
村上源氏。村上天皇之皇子具平親王之後胤。赤松次郎入道
則祐十代之孫。有馬中務大轉刑部卿。法印。源則頼。有馬玄蕃頭從四

位侍 豊氏云云とあり豊氏主丹波国福地山城よりうつり
一年初て別家とあり在所ハ上総国筑後地鑑上巻久留
市原郡五井一万余石なり

米城者御井三瀦兩郡之際也始小早川秀包所城也元和七
年辛酉有馬氏豊氏公三分此州有其二而居此城所増廣也
其為城也南面北背大河流其西深泥在其東北第一城第二
城及外城皆當其南各池隄諸士家其間外城之有市店東西
可一里南北又十餘町其戸數五千四百五十有市宅之外
又有士臣之居東名櫛原西号京隈南称庄島其東為十軒家
敷屋舎皆令比並城東至近地有仕者之居謂之櫛原とあり
筑後志卷二天満宮ハ靈松山東林寺あり東林寺老僧玄
鏡病有て筑前国武蔵の温泉に浴せんとて猿亭に病しけ

る同所武蔵寺に在る菅神像を持て歸ると夢に見けれ
ば風起て武蔵寺に謁て住僧定應法印に語り住僧聞て其
夢の奇なるを感じて云吾年久しく天神木像を持傳へし
り菅公の御自作なりと云ふを故有て當寺に傳來ると
いふとも辺鄙村院よりて世人是を信ぜざり安置をも
のく今幸に夢の告に任せて貴寺に納むべしとて老僧に
属せりと云ふとあり上津荒木村に
東林寺あり久留米城の東なり

○大山寺

續本朝往生傳に汝門高明者本是播磨國書寫山性空上人
之弟子也後任太宰府大山寺三衣一鉢之外更無餘資念佛
讀經以之為業或造博多橋而練抄六卷に保延六年六月廿
日諸卿定申太宰帥顯頼訴申去五月五日九國所々大衆神
人燒拂宰府已下屋舎數十家事此中大山香椎
管崎為張本同書七卷に

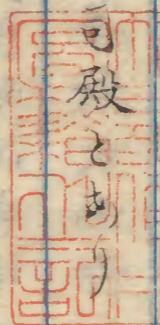
永曆元年十月十二日延曆寺大衆捧日吉神輿參洛訴申太
宰府竈門官吳大山安樂寺燒亡治部權少轉菅原貞衡合戰
事東鑑二十三卷建保五年九月廿九日京都飛脚參着申
云本廿一日山門衆徒頂戴日吉祇園北野等神輿入洛奉振
閑院殿陣頭仍遣北面衆被防禦之又住京健兒光貞基清能
直廣綱等依勅定馳參宮門相支之處加藤兵衛尉光資光貞男後
号如藤新切落八王子駕輿丁男腕之間令汚穢神輿仍奉振
弃歸參是石清水別當法印宗清執務鎮西管崎宮之間天台
末寺大山寺神人船頭長光安為管崎宮留主相摸寺主行遍
吳子息左近將監光助等被殺害仍衆徒蜂起勤奏狀訴申之

尚行遍光助雖被禁獄沒收管崎為山門領并可被配流宗清法
印之由訴申之所奉勅神輿也見之太宰府大山寺八
筑後國北野天滿宮也之北野古文書抑大山寺權別
當職十仰付貞琳法印候就共彼寺領三沢橋田宮田溝
口等事貞琳定可申候云云此處數字分河北庄内弥富名當
社嚴重修理田候被返付候者御敬神御祈禱不可過之
候此使急候間不能他事候供期後便候也謹言七月廿二
日菊池殿道永花押とあり又抑北野社領河北庄事先申
而當庄一田之御教書度々被成下候哉定代官貞琳法
印可持參候候通御分國候哉任御教書之間一田被付候者
尤可為御敬神御祈禱之專一候次民部置家渡入道号地頭
度々競望成候間御下知御教書被成下堅被停止于今程以

乱世之時分赤司土佐入道致契約競望之由共聞可然候仍
地頭停止候支證聞東代々當御代御教書候哉其子細代官
參可申候也然而
來月ちとあり

○菅野村

筑前菅崎宮古文書公文所下筑後國定使可早任本家御
下文音停止中口人遊妨双大官司大神忠家相傳菅野村地頭
職事右去十月御下文到來你右菅野村者有子細宛給忠家
者也神官所司等宜承知不可違失之狀依仰下知如若候菅
野村地頭職事無異儀本家御下文明白也以忠家可為菅野
村地頭職之狀如件負應元年五月在判大官



太宰管内志

筑後之四

